

植物ホルモンの撒布が白菜バイラス病に与える影響について

是 石 鞏・重 永 知 明

(熊本縣農業試験場)

1. 単用撒布試験：白菜，野崎2号9月16日播種，供試薬剤，三共 α -ナフタリン醋酸，濃度 5000 倍，撒布時期及量，結球前3回撒布反当 3～6 斗．試験区の構成，(1) α -ナフタリン醋酸葉面撒布区．(2) 無撒布区．発病調査成績，(1) と (2) の間に発病株率，発病程度共に 5% の危険率で有意差を認めた．収量調査成績，有意差を認めず．顕著な葉害なし．

2. 殺虫剤との混用撒布試験：白菜，野崎2号8月

16日播種．試験区の構成，(1) α -ナフタリン醋酸 2 万～1 万倍液区．(2) エンドリン乳剤 400 倍液区．(3) α -ナフタリン錯酸 (2 万～1 万倍) + エンドリン乳剤 (400 倍) 混合区．(4) 無撒布区．撒布時期及量，播種後 20 日目より 7 日おき 5 回，反当 2～3 斗．発病調査成績，発病株率，発病程度共に (1), (3) が (4) に対し 1% の有意差を認め，(2) と (4), (1) と (3) との間には有意差を認めなかつた．収量調査は行わなかつた．